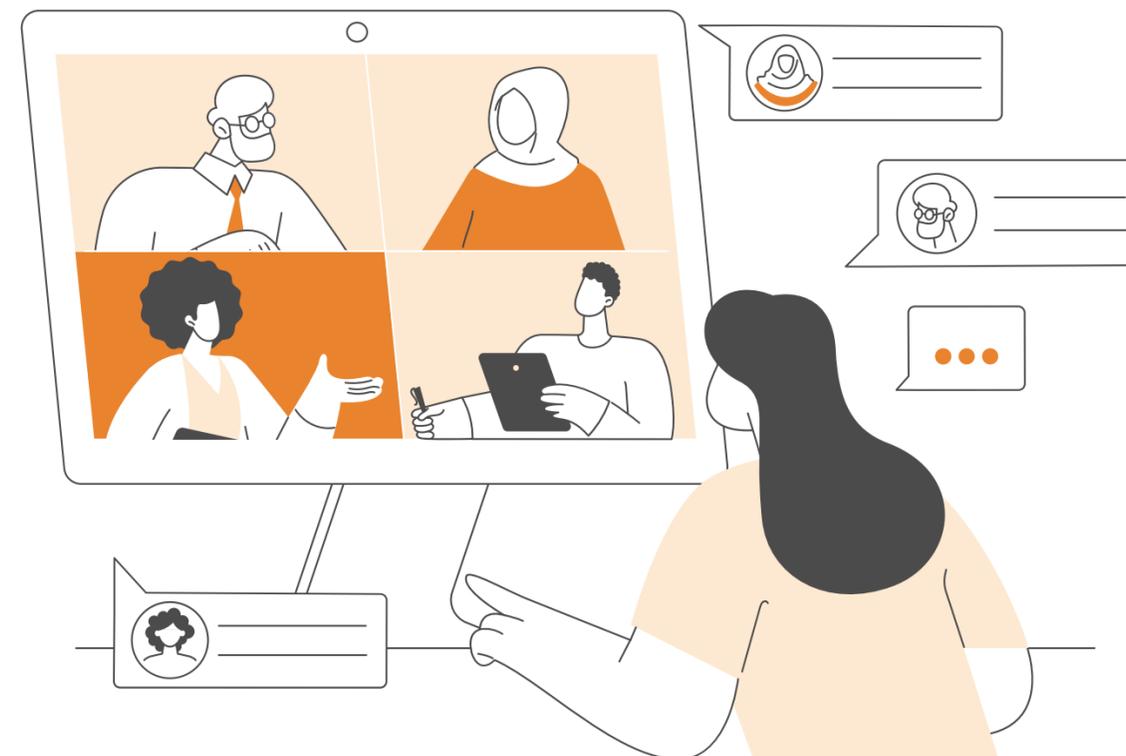


システムと習慣化で打刻漏れをなくす！

人事労務担当者が知らない

チャット連携の

メリットとは



クラウド勤怠管理・人事給与システム

 **KING OF TIME**

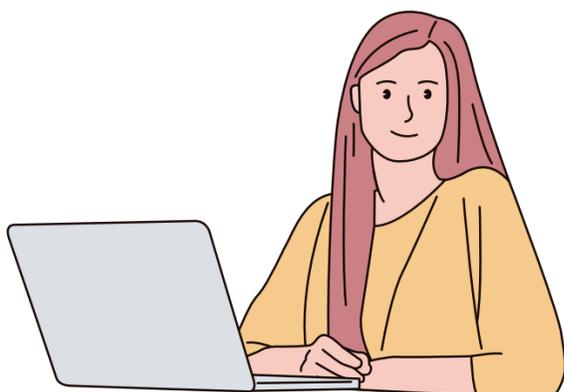
株式会社ヒューマンテクノロジーズ



勤怠管理の課題として多くの企業が悩む「打刻漏れ」。

この問題を解決するアプローチとして注目されているのが「チャット連携による打刻」で、従業員が日常的に利用するチャットツールで打刻でき、業務フローに組み込みやすい特徴があります。本誌では打刻漏れの原因や防止策とともに、チャット連携のメリットと期待できる効果を紹介します。

| | |
|--|---------|
| 打刻漏れはなぜ発生してしまうのか？ | p.2 |
| 打刻漏れ防止の鍵は「システムx習慣化」 | p.3 |
| 「チャット連携による打刻」がおすすめできる理由 | p.4 |
| 漏れをなくす打刻方法のポイント | p.5-7 |
| <ul style="list-style-type: none">• 自社拠点内（オフィスや店舗）での打刻の場合• テレワーク（自宅やサテライトオフィスなどPC操作ができるオフィス外）の場合• 現場作業など、打刻場所が一定ではない場合 | |
| KING OF TIMEのご紹介 | p.8 |
| 人事・労務領域全体を効率化するKING OF TIMEシリーズ | p.9 |
| チャットツールの利便性に関する意識・実態調査 | p.10-17 |



打刻漏れはなぜ発生してしまうのか？



弊社が行った調査*では、打刻漏れが発生する原因として以下の回答が多くなりました。

*株式会社ヒューマンテクノロジーズ「中小企業の勤怠管理に関する実態調査」

打刻のための待ち時間

始業・終業時に少数の打刻用端末に人が集中し、列ができて時間がかかる。

結果として

- ✔ 打刻を後回しにし、忘れてしまうケースが見られる



手順の煩雑さ

打刻に必要な手順が増え手間に感じられ、後回しにしてしまう気持ちが生まれる。

結果として

- ✔ そのまま打刻を忘れてしまう可能性が高まる

また、共用端末での打刻であれば待ち時間が増加する要因にもなる



打刻を習慣化できない

打刻を日常の業務ルーティンに組み込めていない点も大きな要因。

特に

- ✔ 勤務場所が固定されていない場合、習慣化が難しく漏れが生じやすい

テレワークや直行直帰、現場での勤務が多いなど



打刻漏れ防止の鍵は「システム×習慣化」

打刻漏れを効果的に防止するには、「システムの改善」と「習慣化の促進」両面からのアプローチが重要です。

システムの改善

- ✓ 端末数の増設や分散配置により待ち時間を解消
- ✓ シンプルな操作で打刻が可能な打刻機やシステムを採用し煩雑さを軽減

ストレスなく打刻できる環境を整備

習慣化の促進

日常の業務フローに打刻を組み込むことが効果的

- ✓ 入退室と打刻を連動させる
- ✓ PCの起動と打刻を連動させる
- ✓ 入り口のすぐそばに打刻機を配置する
- ✓ 顔認証により立ち止まるだけで打刻を完了できる

必ず行う動作と紐づけることで漏れを防止できる

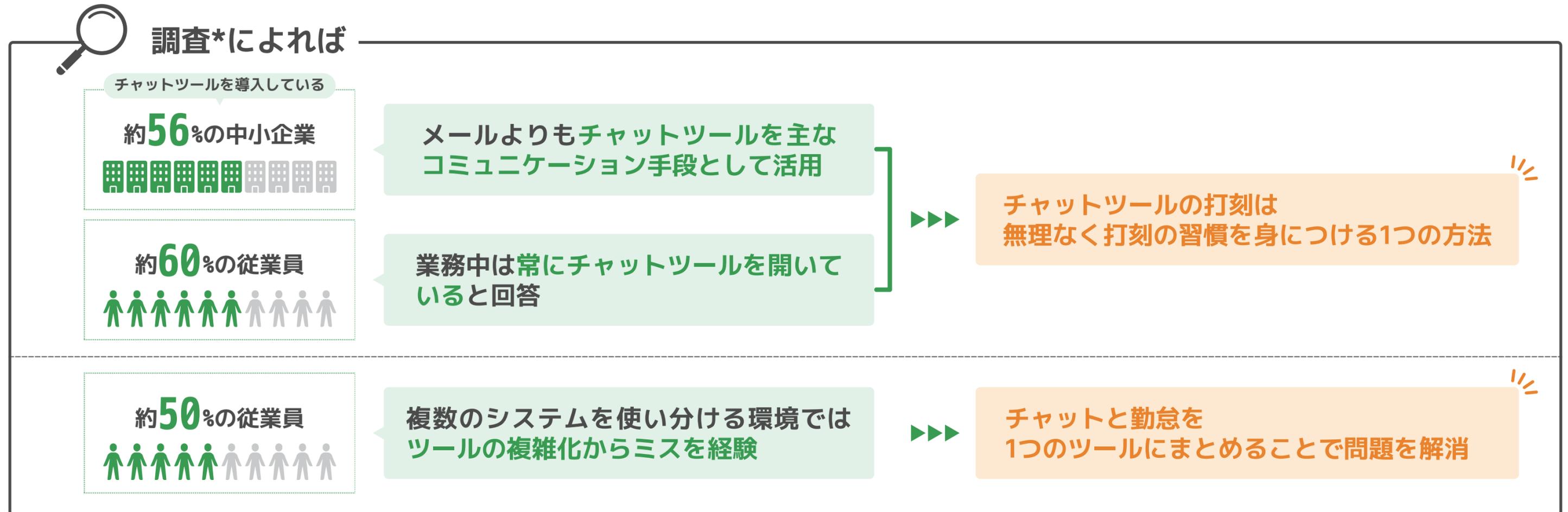
調査*によると、利用ツールの複雑化による操作ミスを **約50%** の従業員が経験

シンプルなシステム設計は、打刻漏れ防止に直結することがわかる

*株式会社ヒューマンテクノロジーズ「チャットツールの利便性に関する意識・実態調査」

「チャット連携による打刻」がおすすめできる理由

チャット連携による打刻とは、日常的に利用しているチャットツール上で打刻する方法です。



*株式会社ヒューマンテクノロジーズ「チャットツールの利便性に関する意識・実態調査」

デジタルツールに不慣れな従業員が多い

現場系の職種の場合でも

- ✔チャットは比較的馴染み深く操作しやすい
- ✔モバイル端末で利用できる

といった理由で適している

日々の業務に組み込みやすい柔軟性が、チャット連携ならではの大きな強み 

自社拠点内での打刻において最も効果的なのは、「必ず行う動作」と連携した打刻システムです。

代表例

入退室管理システムとの連携

社用車（白ナンバー）を保有する場合は
アルコールチェック連携

小売サービス業なら決済端末との連携

打刻漏れはほぼ無くなるが、ある程度の初期費用がかかる

その他の打刻方法では、どうしても打刻漏れのリスクが残る

この場合は、

✔ 入り口付近やロッカー・キャビネットなど、必ず通る場所の近くに打刻機を配置する

✔ 従業員数や拠点入り口の数に応じて複数の端末を用意する

などの工夫が有効

打刻漏れ防止において特にチャット連携が優れている点は、各自の端末で打刻できるため混雑が発生しない点 

✔ 「混んでいるから」と後回しにしたまま打刻を忘れてしまうことがない

✔ 始業・就業時にチャットツールを開く習慣ができれば、報連相やコミュニケーションの強化にもつながる

✔ テレワークや直行・直帰時も同じツールで一貫した打刻方法が使える点も、大きなメリット

テレワーク環境での打刻には、各自の端末で打刻できるシステムが必須ですが、それぞれの方法に特徴があります。

PCログでの打刻

手間がなく確実に記録できる利点がある一方、シャットダウン忘れによる打刻漏れや「無駄にPCを起動し続ける」という状態が生じる可能性がある。

業務実態と乖離した記録になる
リスクも考慮すべき

Webやアプリでの打刻

個別に専用画面を開く必要がある。「打刻のための作業」となり手間に感じてしまい、結果として打刻漏れが生じる可能性がある。

業務に集中しているときほど、打刻
を忘れがちになってしまう点も懸念

一方、チャット連携なら

- ✔ 日常的なコミュニケーションツールと打刻が統合されており、大きな効果が見込める
- ✔ 朝のチーム挨拶や業務報告の際に打刻でき、既存の業務フローに自然に組み込むことが可能

出勤・退勤時にチャットで上司や同僚に挨拶する習慣が生まれれば、スムーズな業務開始・終了だけでなく、リモートでのコミュニケーションの起点にもなり得ます



建設現場や訪問サービスなど、打刻場所が固定されない現場作業の場合、常にPCで打刻を行うのは現実的ではありません。

スマートフォンでの打刻を前提にする必要がある

モバイル端末によるブラウザやアプリでの打刻

| | |
|-------|--|
| メリット | 位置情報の記録や端末内蔵の生体認証など、現場特有の機能を活用できる |
| デメリット | <ul style="list-style-type: none">✔ 「打刻のための作業」という認識から、手間だと感じてしまう人も多い✔ 忙しい現場では後回しにされがちで、打刻漏れが発生しやすくなる✔ 交通事情により到着が遅れているなど、個別の事情が生じた際には別途管理者に報告する必要があり、二重の手間が生じることもある |

このような環境こそ、チャット連携が効果を発揮

現場では開始・終了報告は基本的なルーティンとして行われている

| | |
|------|--|
| メリット | <ul style="list-style-type: none">✔ 日常的に使用しているチャットツールであれば操作の負担も少ない✔ モバイル端末でも利用できるように、遠隔地での勤務状況を管理者が把握しやすい |
|------|--|

現場での開始・終了報告と打刻を一体化することで自然な流れができる



KING OF TIMEのご紹介

「KING OF TIME（キングオブタイム）」は、市場シェアNo.1*の実績を持つクラウド型勤怠管理システムです。

*富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場 2024年版」勤怠管理ソフトSaaS/PaaS市場 利用ID数 2023年度実績

6万社 **380**万人以上の **導入実績** 2025年1月時点 があり、多様な業種・業態の勤怠管理ニーズに応えてきました。

豊富な打刻方法

チャット連携を含む豊富な打刻方法で、あらゆる勤務形態に対応。WowTalk、LINE WORKSをはじめ、多様なチャットツールと連携可能。使い慣れているチャットで、デジタルツールに不慣れな従業員でも抵抗なく打刻できる点が強み。

最適な打刻方法を選択

共用端末での打刻から個人端末での打刻、ICカード認証、生体認証、さらには入退室管理やアルコールチェックとの連携など、働き方や環境に合わせて最適な打刻方法を選択できる。

シームレスに一元管理

人事労務管理や給与計算までシームレスに一元管理でき、導入時の初期費用は0円。月額300円/人からの従量課金制という明瞭な料金体系が魅力で、30日間の無料トライアルも可能。

多様な働き方により勤怠管理に大きな手間がかかっている企業にとって、効率化と正確性向上を実現する最適なソリューションといえるでしょう



人事・労務領域全体を効率化するKING OF TIMEシリーズ

人事・労務領域全体でシリーズ製品を展開。
追加料金なしで全て利用可能、期間・人数の制限はありません



人事管理・従業員管理

勤怠管理

給与計算・年末調整



人事データを効率的に管理
入社手続きや給与明細発行も可能



業界随一の打刻方法に加え、勤怠
管理に必要なあらゆる機能を搭載



勤怠管理から給与計算までを
シームレスに一元管理



Windowsログオン・ログオフで出勤
を打刻より正確な勤務時間を把握



従業員の働き方を可視化し
法令遵守と生産性向上を両立

資料請求やオンラインデモ
その他お問い合わせはこちら



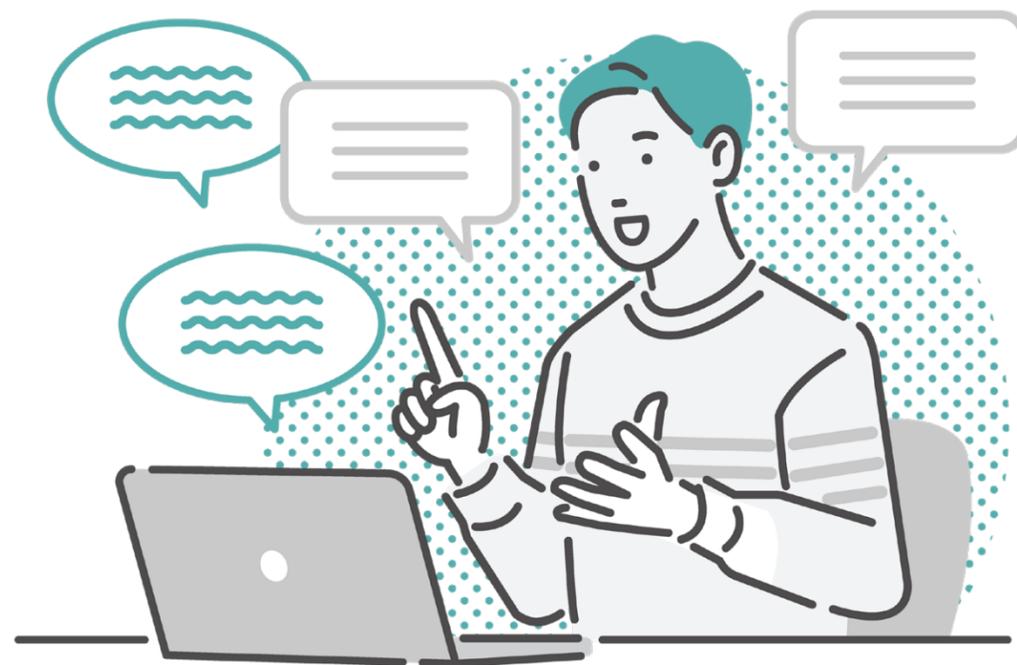
お問合せ窓口

<https://www.kingoftime.jp/mailform/>



従業員数21～300名の中小企業が対象

チャットツールの利便性に関する 意識・実態調査



クラウド勤怠管理システム

 **KING OF TIME**

 G-CERTZ
SYSTEM SERVICE
GLP-007-IC
ISO/IEC 27001:2013

 P
10823670

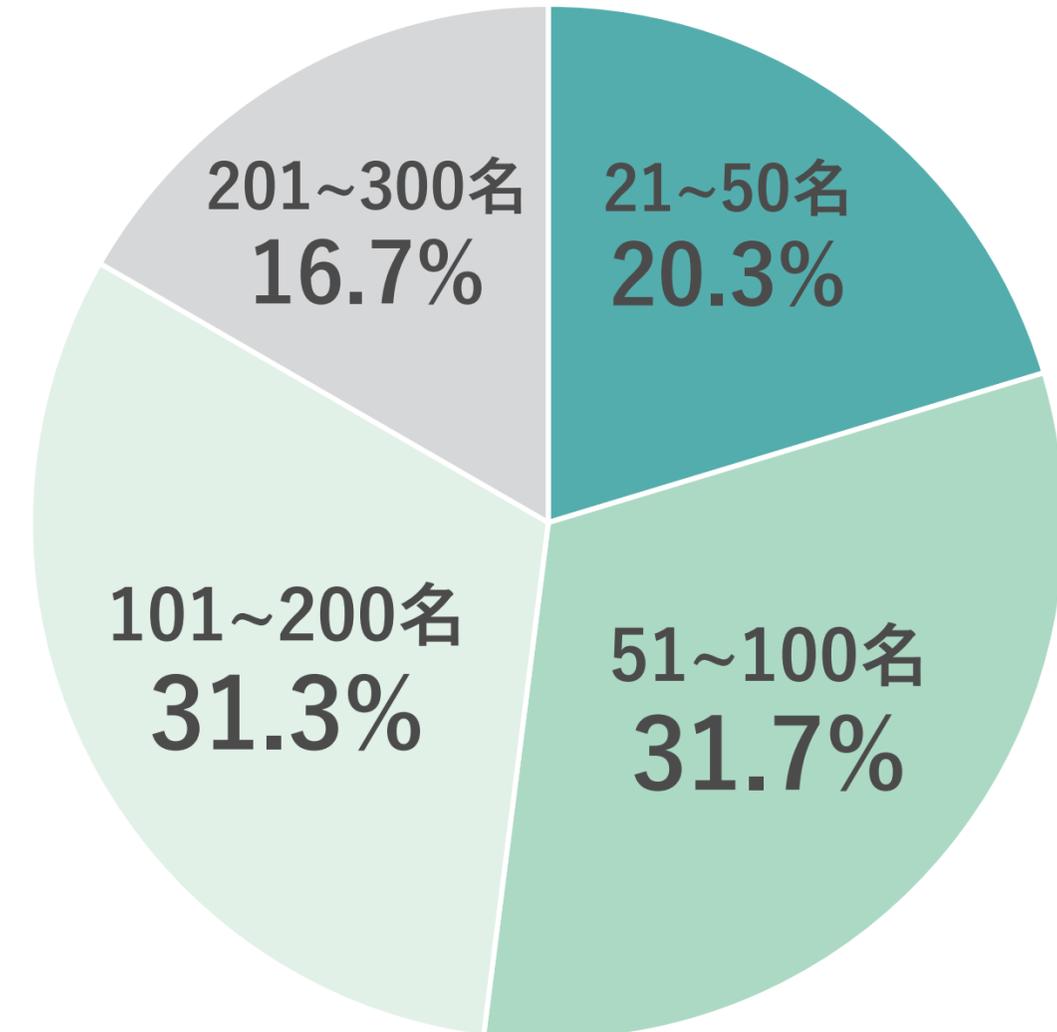
 **H&T**
HUMAN TECHNOLOGIES

調査の詳細

調査概要

| | |
|-------------|-----------------------------|
| 調査対象 | 一般会社員男女300名 |
| 調査条件 | 従業員数21~300名の 中小企業に勤める会社員 |
| 調査対象 エリア | 全国 |
| 調査期間 | 2025年2月1日~7日 |
| 調査方法 | インターネット調査 |

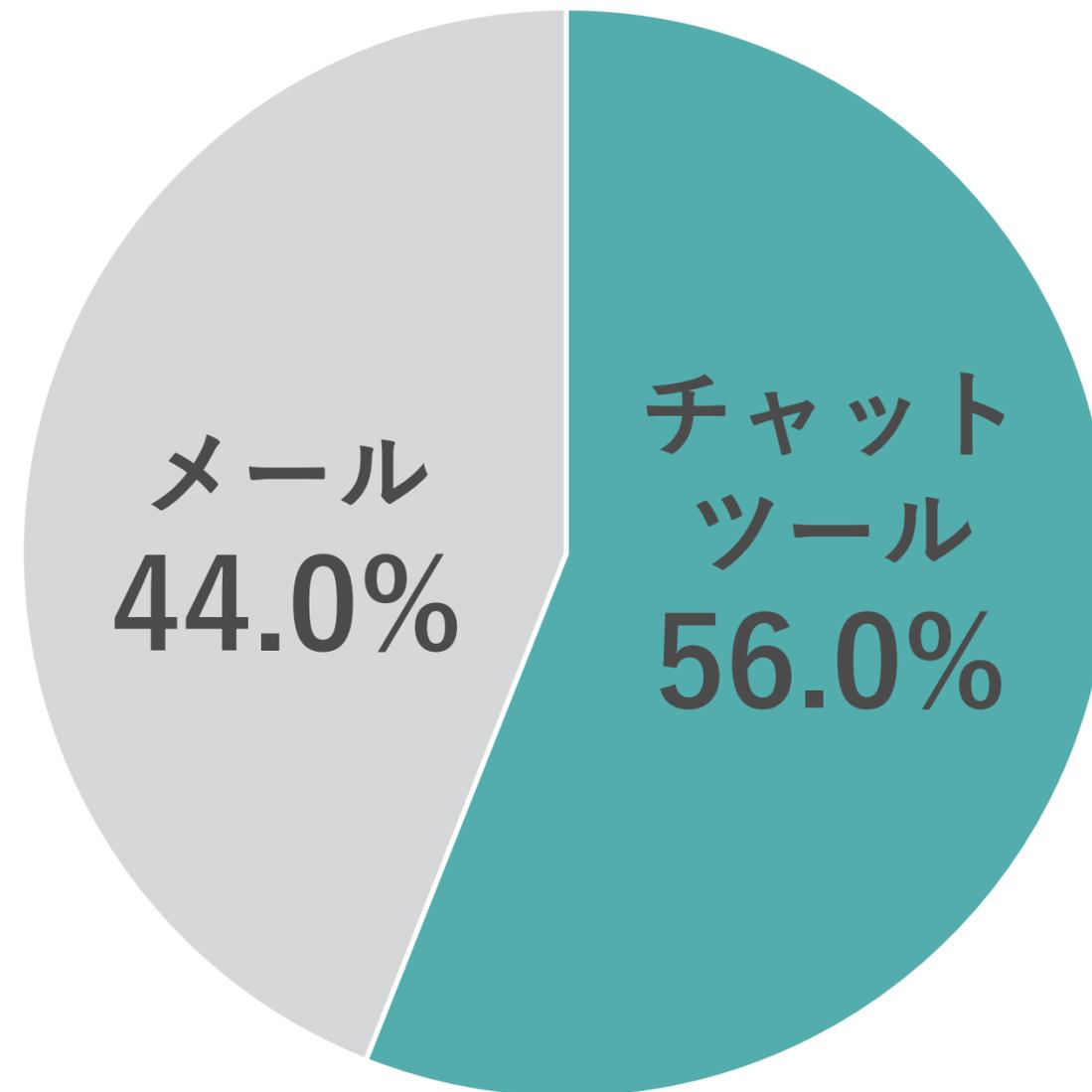
回答者企業の従業員規模別割合



チャットツールのメイン利用は中小企業では半数以上

チャットツールの導入企業においては、その利用頻度がメールを上回る結果となりました。
メールに替わるコミュニケーション手段として徐々に受け入れられつつあり、今後も導入や活用は進むと考えられます。

チャットツールとメールでは普段どちらをよく使いますか？（単一回答）

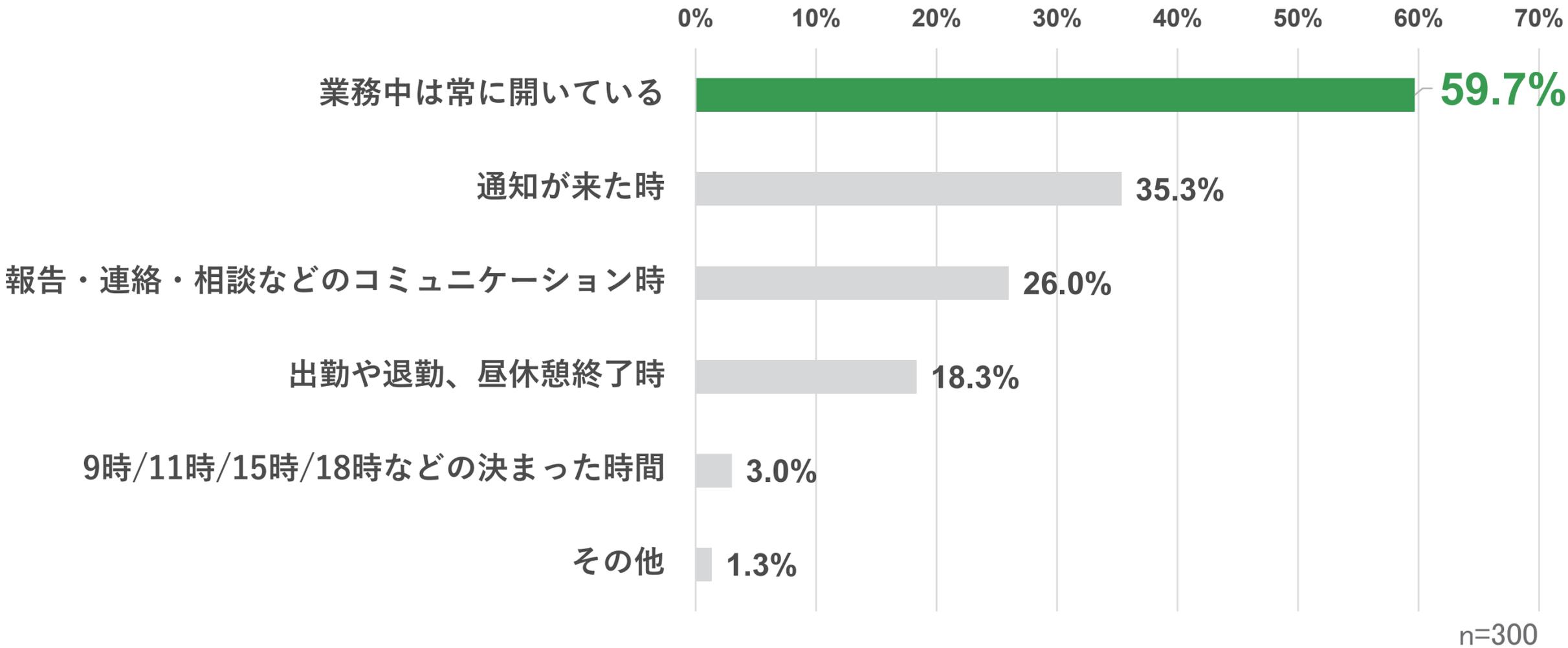


n=300

中小企業従業員の約6割が「チャットツールは常にかいている」と回答

業務時間中は常にチャットツールをかいているユーザーが約6割と、接触時間の長さが浮き彫りとなりました。
このことから、チャットツールをより使いこなすことが業務の効率化に大きな効果をもたらすのではないのでしょうか。

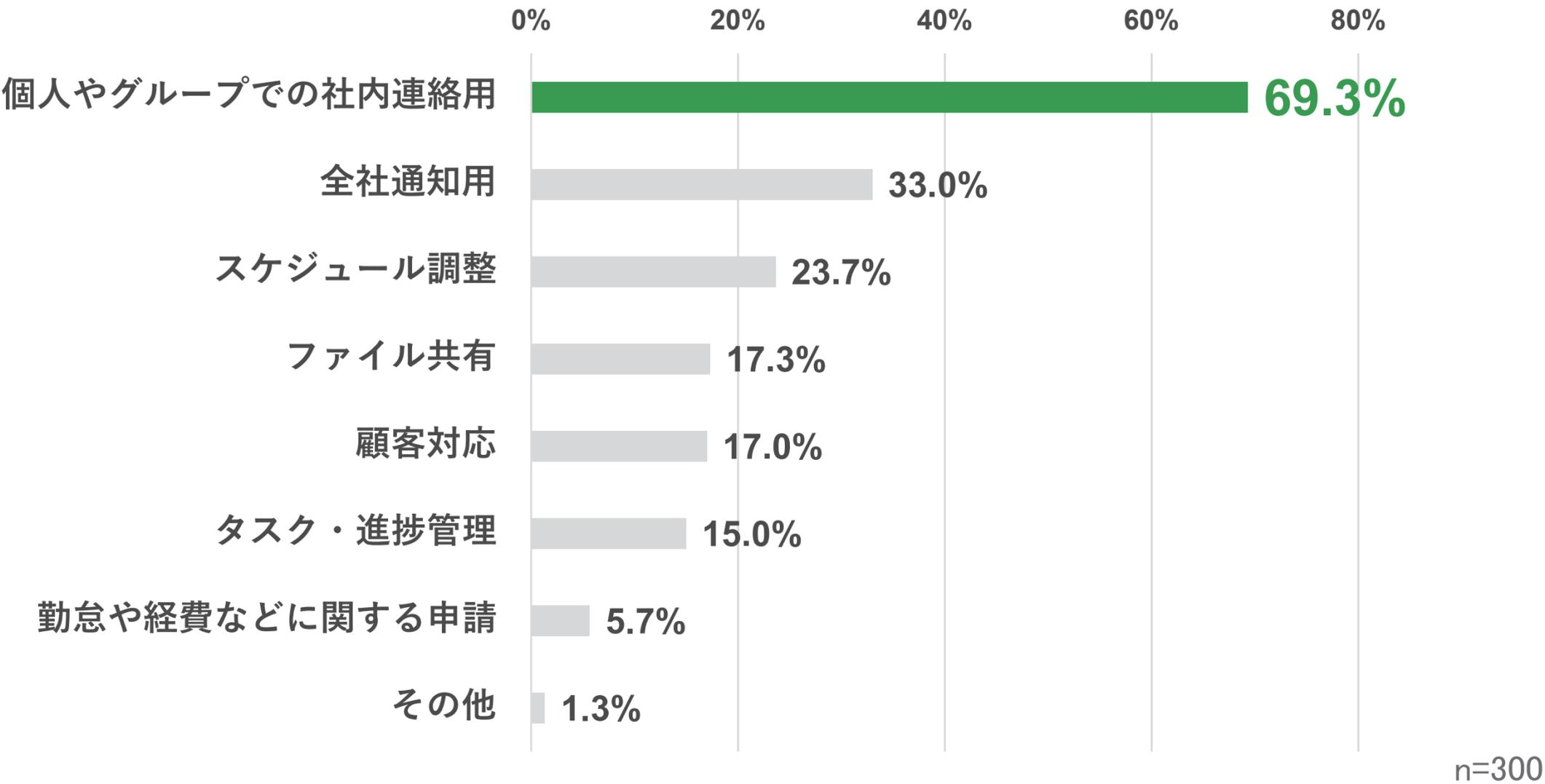
チャットツールを利用するタイミングについて教えてください。（複数回答）



中小企業でのチャットツールの利用用途は社内連絡用が7割を占める

チャットツールを社内連絡で利用しているユーザーは約7割となっており、より手軽に連絡ができるメリットが発揮されています。一方で顧客対応や連絡以外の用途での割合は低く、さらなる活用の余地は残っていると考えられます。

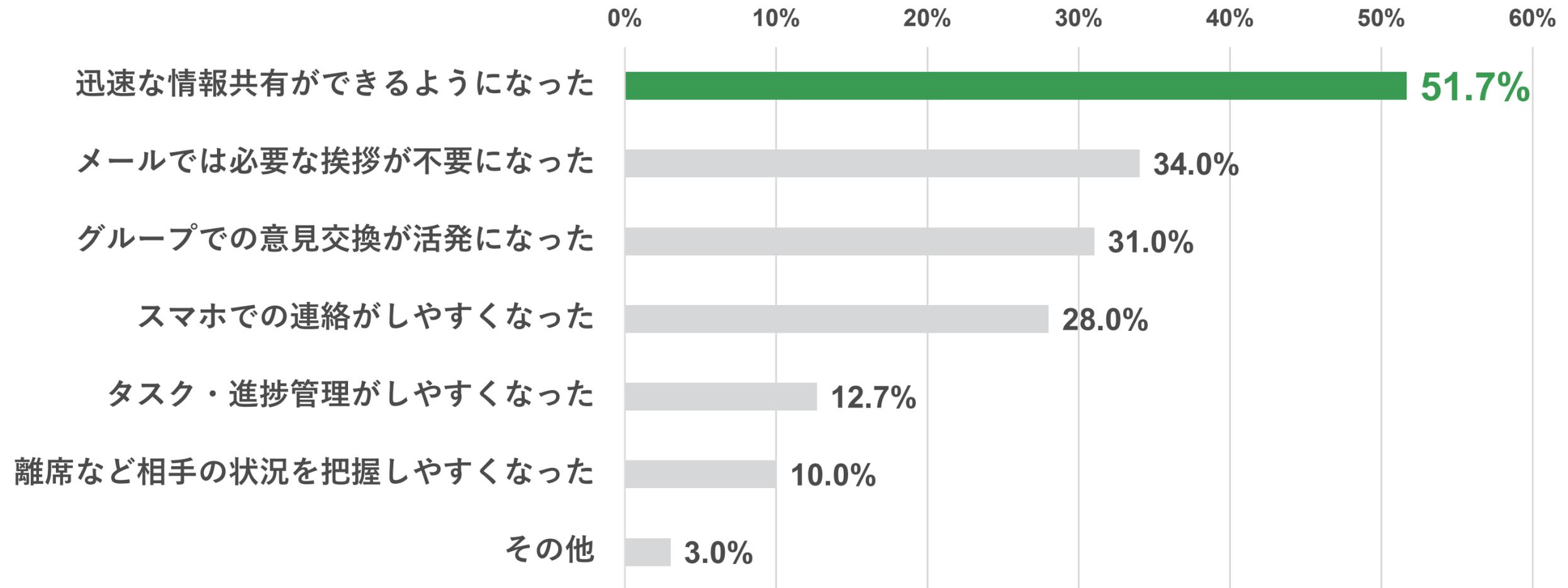
普段のチャットツールの利用用途について教えてください。（複数回答）



中小企業従業員の2人に1人がチャットツールの利点は迅速な情報共有と回答

約半数のユーザーが迅速な情報共有にメリットを感じています。コミュニケーションだけでなく、「必要な情報をその場で共有できる」点を軸に、チャットツールの用途を広げていくのが活用促進のポイントになると思われます。

チャットツールを導入してよかった点について教えてください。（複数回答）

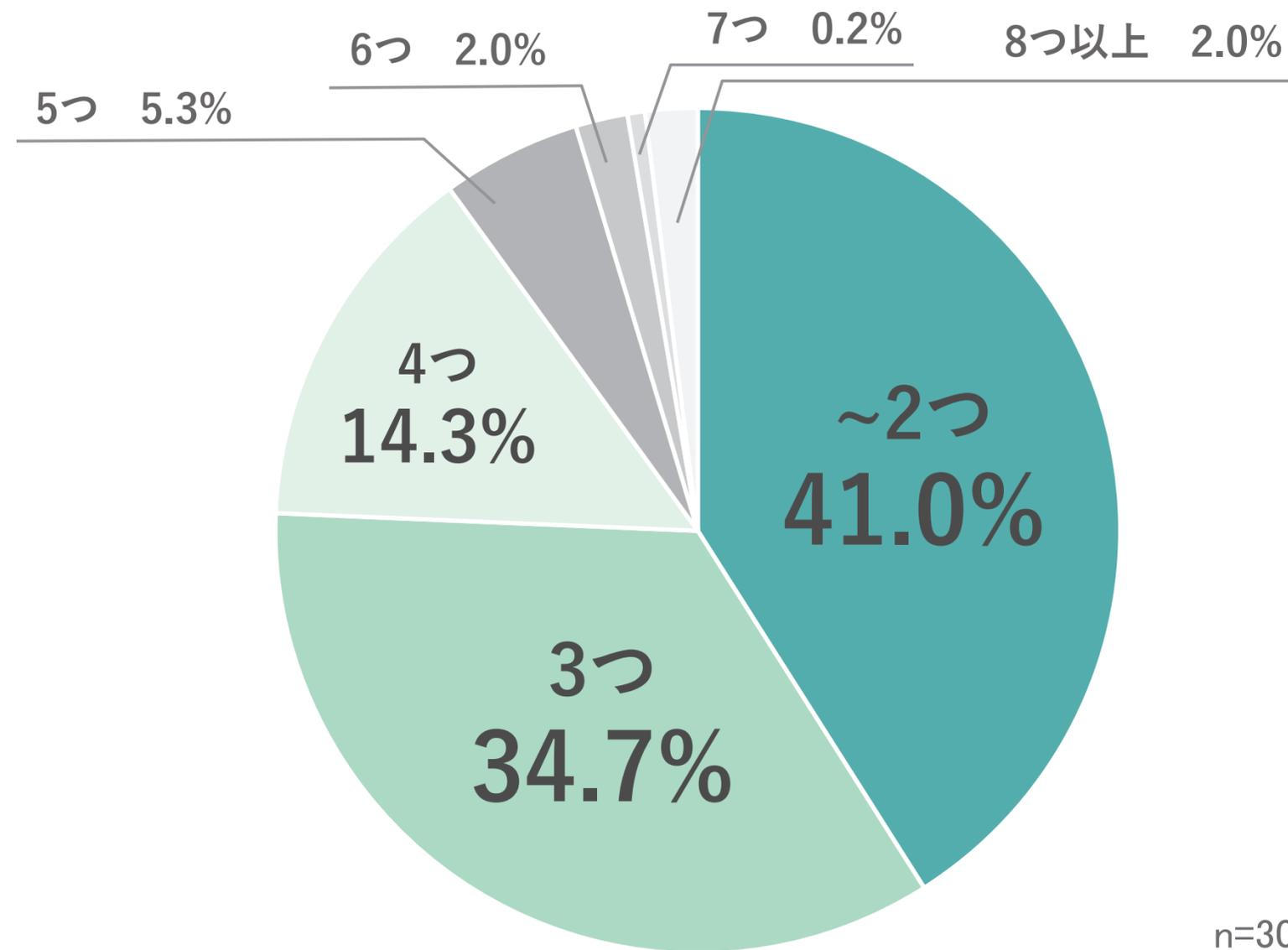


n=300

4つ以下のツールを利用している中小企業が9割

業務で主に利用しているツールは~4つの企業が大部分を占めています。コスト面や導入・運用の負担から多くのツール導入に消極的な企業が多いと推測されるため、1つ1つのツールの効果を最大限発揮させることが重要だと考えられます。

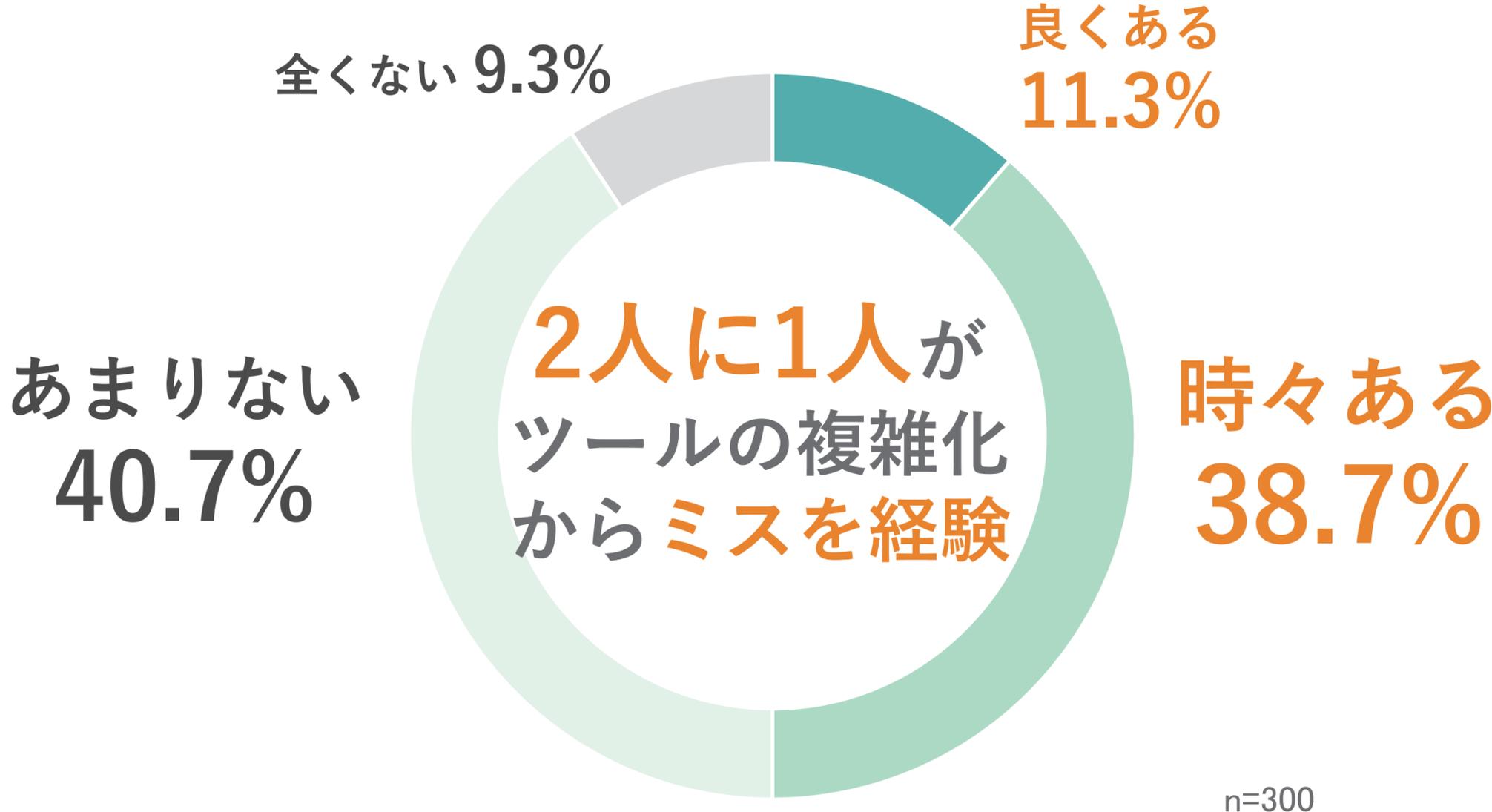
チャットツールの他、メールや勤怠管理、経費申請など、普段から利用しているツールはどのくらいありますか？（単一回答）



中小企業従業員の2人に1人がツールの複雑化からミスを経験と回答

ユーザーの半数はツールの複雑化からミスを起こした経験があるとわかりました。単にツールを導入するのではなく、ツールの運用や連携をいかにシンプルにできるかを考慮しなければ、ヒューマンエラーが増えてしまうリスクもある点に留意しなければなりません。

利用ツールの複雑化から、タスク・申請の抜け漏れや勘違い、ミスを起こしたことはありますか。（単一回答）



まとめ

中小企業におけるチャットツール利用の実態

チャットツールをメイン利用している中小企業は半数以上
用途は社内連絡用が7割



中小企業従業員の2人に1人がチャットツールの利点を
迅速な情報共有と回答



9割の中小企業で導入しているツール数は4つ以下



中小企業従業員の2人に1人がツールの複雑化から
ミスを経験と回答



調査に基づく考察

チャットツールの普及は進んでいるものの、
用途はまだ限定的でさらなる活用の余地あり

さらなる活用においては**迅速な情報共有という
メリットを活かせるかどうか**がポイント

ツールを増やすよりは
1つのツールでできることを拡大するのが重要

ツールの運用や連携をシンプルにすることが
ヒューマンエラー防止における課題に